

窓辺

あんどろ
安藤 隆敏

「旅する蝶」 アサギマダラの魅力

日本には260種ほどのチヨウがいます。その中で一つだけ、台湾や沖縄県から山形県、福島県にかけて「旅をする蝶」がいます。アサギマダラです。

私は「なぜ、危険を冒して旅をするのだろう」という疑問を持ちました。春は北上、秋は南下という約2千キロにもなる旅です。これまでの目撃情報を総合すると、静岡県内には、浜松市天竜区水窪町から湖西連峰、そして伊良湖岬へのルート、富士山東側から伊豆

半島、富士山西側から相良町、そして、伊良湖岬へのルートがあると考えられます。

これらに共通するのは、食草キシヨランの分布です。この種子には、綿毛が付いていて風に乘って遠くに運ばれます。しかし、キシヨランは石灰岩がないと、大きく成長しません。石灰岩は二酸化炭素を閉じこめている岩石です。バクテリアも石灰岩の基をつくりました。さらに、サンゴも大量の石灰をつくって

います。それらが、大陸プレートとともに動いて、現在のような地形になりました。

この大陸プレートがぶつかったところのラインが、まさに石灰岩とキシヨランの分布、そして、アサギマダラの旅のルートと重なっているのです。つまり、地質・岩石と植物と昆虫の密接なつながりを示すものなのです。

しかも、それは大陸プレート移動という遠い昔に端を発しているという事実（さか）にまで遡ることになります。アサギマダラは、このような自然の壮大さを感じさせてくれます。

（浜松科学館館長）